

様式第2号

視察研修先	神奈川県茅ヶ崎市議会	氏名	木村 寿太郎
視察研修項目	1. 一般質問における重複質問の調整について 2. 各委員会での政策討議について		
<p>感想・所見など</p> <p>1. 一般質問における重複質問の調整について</p> <p>茅ヶ崎市議会としては、「質問は、住民を代表して行うものですから、前の議員が質問した事を後の議員が重複して質問することなどは、考えられない事であると断言していたが、質問は通告制であり、当然のことである。</p> <p>しかし、茅ヶ崎市議会は、令和元年、議会運営委員会に諮問し、意見が多数に分かれたが、重複しないように実施し、現在に至っている。例えば、AとBがせっかく調整したのに、その後にCが現れたら、またそこで、調整の必要が出て、本会議の前に、再調整し通告を行う。その後、定例会終了後に、いろいろな課題と共に協議を行い、現在は、大きなトラブルは発生していない。スムーズに経過しているが、一方では、早期に、質問項目を提出する義務が生じたことで、内容変更や、項目追加・項目変更が起きているとのこと。</p> <p>本市は、現況、通告前に各会派や事務局が調整を行い、大きなトラブルは発生していない。</p> <p>2. 各委員会での政策討議について</p> <p>全国的に、内容ベースでは、大きな変化はないが、茅ヶ崎市議会では、4つの常任委員会（総務・都市経済・文化教育・環境衛生）で構成されており、常任委員会毎に、政策討議を行った後には、全員協議会で協議し、議長から市長へ提言している。</p> <p>そして、常任委員会毎の活動計画も同じように全議員に説明し、意見交換を行い、市議会として決定している。</p> <p>本市と比較しても人口は、6倍を超えている。それぞれの常任委員会で、2年の期間中に、いろいろな政策討議テーマ（総務常任委員会では、中核市への移行目標時期・行政組織の改編など）を掲げ、挑戦しており、行政としてのスケールの違いに感心させられた。</p>			

視察研修先	茨城県取手市議会	氏名	木村 寿太郎
視察研修項目	1. オンラインを利用した議会運営の取り組みについて 2. ICTを活用した市議会の危機対応の取り組みについて		
感想・所見など			
<p>1. オンラインを利用した議会運営の取り組みについて</p> <p>早稲田大学マニフェスト研究所では、毎年、全地方議会に対し、前年 1 年間の議会活動に関する調査を実施し、数値化して、ランキングによる公表を行っています。この度、「議会の改革度調査 2021」の調査結果が公表され、見事、取手市議会は、2 年連続で全国第 1 位にランクインした。全国から注目され、市議会への視察が殺到している。</p> <p>これまでの議会改革のほか、昨年 1 年間では、AI 認識字幕システムによるライブ配信、市民リライター、出前講座、会議資料のネット公開、360 度カメラでのライブ配信、欠席事由に出産を明記、オンライン委員会、デモテック協定、オンライン意見交換会など、ICT を積極的に活用し、市民に開かれた議会の実現を目指している。</p> <p>本市では、取手市さんより、2 年早くタブレットを導入したが、まだまだ、トレーニング不足かと思った。議員、事務局員の一生懸命さが、ひしひしと伝わってきた。</p> <p>2. ICTを活用した市議会の危機対応の取り組みについて</p> <p>議会として、危機対応訓練を実施しているが、幸いにして、取手市としては、大きな災害は発生していない。災害を想定した訓練では、議会ですとまとめた情報を市の災害対策本部に議長が伝える。その後に、執行機関側から議長に、現状報告があり、順次、第 1 報・第 2 報の報告が届くようになる。夜間の場合には、ラインで共有し、日中の場合はメール、タブレット (SideBooks) で共有するという流れになる。これまで、感染症対策・災害訓練は、既に 20 回程経験している。</p> <p>デジタル化が進み、議会としての品格が上がり、市民からも今後への期待感が増しているとの事である。</p>			